



播磨科学公園都市まちびらき 20周年記念誌

より輝くまちに向けて

兵庫県企業庁

目 次

巻頭言

公営企業管理者挨拶	1
特別寄稿	3
第1編 播磨科学公園都市まちびらき 20周年シンポジウム ～より輝くまちに向けて～	7
開会挨拶	9
第1部 こどもたちが語る「光都のみらい」	11
第2部 播磨科学公園都市 20年のあゆみ	25
第3部 パネルディスカッション	43
閉会挨拶	56
第2編 播磨科学公園都市まちびらき 20周年関連イベントの記録	57
第3編 まちびらき 20周年を機に芽生えた住民主体の取組	77

【巻末】 播磨科学公園都市まちびらき 20周年記念事業の軌跡

はじめに

この播磨科学公園都市は、昨年、まちびらきから20周年を迎えました。

これまで、このまちは SPring-8 に代表される「科学のまち」という印象が強かったと思います。

それが、まちびらきから20年を経て、多くの企業や、県立大学をはじめとした教育機関、最先端の医療施設、スポーツ施設等が立地し、様々な方々が住み・学び・働き・訪れることにより、「科学のまち」の範囲にとどまらない多様な魅力を持ち始めています。

私は、20周年記念事業を通じて、このまちで住み・学び・働き・訪れる皆様に、このまちが有する多様な魅力が十分に発揮されるとともに、行政区域を越えた多様な交流が行われ、地域としての誇りや一体感がより感じられるようなまちづくりの契機としたいと考え、この事業をスタートしました。そしてそのためにはこの事業を一過性のイベントで終わらせるのではなく、今後も継続される取組の契機とするという決意で臨みました。

このことを実現する上で一番重要なことは、住民の皆さんが主体となって事業が展開され、継続されることです。

今回は住民の皆さんを中心として、いろいろなことを語り合っただけから始めました。

平成29年7月から「テクノ再発見プロジェクト“まちのタネ編”」と題して、テクノの地域資源や魅力を見つけ出す連続ワークショップを開催してきました。その一環として、こどもワークショップを開催し、このまちで学ぶこどもたちに「まちのみらいかるた」を作成してもらいました。

またその成果を、平成29年12月10日の「播磨科学公園都市まちびらき20周年記念シンポジウム」でこどもたちが発表してくれました。会場の大人たちも、光都にこんなにいいところがあったのか、また、こどもたちがこんなに光都に愛着を持ってきているのかということに驚かれたのではないのでしょうか。私も、こどもたちのこの思いを大切に、こどもたちがすばらしいふるさととして誇れるまちに必ずするのだと決意を新たにしているところです。

また、こうした動きに呼応するように、住民の皆さんによる主体的な取組が次々と展開されてきました。

ひとつには、光都にお住まいの方々やお勤めの方々が、「光都ふるさとプロジェクト」というチームを結成され、「夏祭り」や、冬にはとんどなどの

「火祭り」が開催されました。これらの集まりには、住民がボランティアとして運営に協力し、都市内の多くの企業や団体が協賛されるとともに、非常に多くの方々が来場され、大いに盛り上がりました。光都がふるさとと思えるように活動していきたいということをお聞きしていますので、今後の展開を楽しみにしているところです。

加えて、ふれあいの祭典においては、都市内の企業や住民有志の方々がブースを出展して、それぞれの活動をアピールし、一緒に祭典を盛り立ててくださいました。

第1回テクノ・ジャズ・フェスティバルも、このまちに大きな夢を持つ人達の自主的な取組として実施されました。既に第2回目が予定されています。



このほか、このまちにとって大きな出来事としては、4面のサッカーコートと合宿所のオープンがありました。サッカー場に関連した交流人口を11万人から20万人に増やしていきたいと考えています。グランドゴルフなど多様なスポーツや、未利用時にはドローンの練習場としてもご利用いただきたいと思います。

商業施設の誘致も、できるだけ早く実現していきたいと考えています。

これらの地道な取組を通じて、まちへの愛着や誇りを醸成し、おらがまち意識やまちの一体感ができているのではないかと考えています。

住み・学び・働き・訪れる皆様、ともに力を合わせ、この播磨科学公園都市を、より輝くまちにしていきたいでしょう。

兵庫県公営企業管理者 石井 孝一

播磨科学公園都市を核とした 賑わいの創出

西播磨県民局は、播磨科学公園都市のまちびらきから4年後の平成13年に新設され、平成14年に現在の場所に庁舎が完成しました。以来、播磨科学公園都市の成長とともに歩んできました。

西播磨県民局では、地域創生の取組として、定住人口や交流人口の拡大を図るた

め、豊かな自然や歴史・文化など、西播磨の魅力を生かした観光・交流事業を推進しています。その中で播磨科学公園都市を核とした賑わいの創出にも取り組んでいます。

とりわけ、平成14年度から毎年4月に開催している「西播磨フロンティア祭」は、西播磨を元気にしようとする人たちが活動発表を行う「出る杭大会」、地域のうまいもの・特産品等を展示即売する「ふるさとバザール」、ご当地麺料理をPRする「イケ麺フェスティバル」など多彩な内容で、約2万人が訪れる西播磨の春のイベントとして定着しています。

また、平成29年度は、まちびらき20周年記念事業として、自転車を楽しみながら地域の魅力を体感する「西播磨ロードサイクリング」や、多彩なステージパフォーマンス、グルメ・スイーツ・特産品の販売など西播磨の魅力を存分に楽しめる「西播磨ふれあいフェスティバル」を開催し、多くの人で賑わいました。

平成30年度は、「ひょうご五国博」のタイアップ事業として、スポーツチャンバラやフットダーツなど全世代が気軽にスポーツを楽しむことができる「西播磨オータムスポーツフェスタ」を9月に開催します。

播磨科学公園都市は、光都サッカー場の増設や合宿所のオープンなど新たな交流施設の整備が進められました。西播磨の地域創生のためには、播磨科学公園都市の更なる発展が不可欠です。

西播磨県民局としては、今後も、この都市の持つポテンシャルを最大限に活用しつつ、地域の皆様とともに、まちの賑わい創出に努めてまいります。



兵庫県西播磨県民局長
東元 良宏

新たな飛躍に向けて

播磨科学公園都市のまちびらき20周年にあたり、記念誌が発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。

播磨科学公園都市は、人と自然と科学が調和する高次元機能都市をトータルコンセプトに多角的な整備が進められ、住宅機能、小学校から県立大学に至る教

育機関、世界に誇るSPRING-8・SACLA、高度な医療を提供する県立粒子線医療センター、スポーツ施設、企業の集積など、20年の歳月とともに多彩な魅力とにぎわいを創出してきました。

今日、我が国は、経験したことのない少子高齢化、人口減少社会に直面し、社会構造が大きく変わろうとする中で、求められる価値観、ニーズも多様化し、地方圏の将来は極めて厳しいと予想され、地域の特性に応じた地方創生への取組が求められています。

このような中で、平成27年度、たつの市、宍粟市、上郡町、佐用町は、これまで培われてきた絆を尊重しつつ、この地域最大の資源である「播磨科学公園都市」を核として、定住自立圏構想をスタートさせました。

これから、播磨科学公園都市は、播磨自動車道の全線開通により、商業施設、ホテル等の誘致、光都サッカー場増設に伴う関係人口の増大など、ますます広域的な機能が活性化し、更に多様性豊かな都市へと成長する可能性を秘めていると感じています。

播磨科学公園都市が輝けば圏域市町が輝き、圏域市町が輝けば播磨科学公園都市が輝く。

圏域市町、住民、兵庫県企業庁が連携・協働し、郷土への誇りと自信が持てる新たな視点からのまちづくりが地域創生への近道ではないかと感じております。

まちびらき20周年を契機に、新たな飛躍が遂げられることを祈念いたしまして、発刊に寄せる言葉といたします。



たつの市長
山本 実

これからの光都の可能性と期待

たつの市、上郡町、佐用町にまたがる丘陵地に西播磨テクノポリス開発計画が承認された昭和 59 年は、それぞれのまちに活気があり、将来に希望が満ち溢れていた良き時代でした。そのような時代に人口 25,000 人の都市ができるということで、当時、企業人としてテクノポリス開発に夢と希望を抱きながら商工業者の会議で議論を重ねていたことが思い出されます。

その後、都市内に SPring-8 や SACLA など最先端の科学技術研究施設が建設・稼働し、様々な研究成果を挙げられている一方で、通信技術の目まぐるしい進化等に起因して、現時点で居住人口は 1,400 人にとどまっています。

しかしながら、都市内には世界に誇る最先端の科学技術施設のほか、兵庫県立大学理学部、同大学附属中学校・高等学校を有し、都市内外から多くの学生が学び、科学分野における将来人材の育成現場にもなっています。

また、都市内にあるサッカー場には県内外から年間延べ 11 万人もの利用があり、昨年度にはサッカー場の増設と合宿所が整備されたことと、32 年度の播磨自動車道の全線開通による都市へのアクセス機能の充実が、交流人口のさらなる向上に繋がるものと期待しております。

この光都に計画・期待された人口の定着には至らないまでも、先端科学の研究環境、充実した教育環境、自然豊かな居住環境及びスポーツ交流環境という都市のポテンシャルは、交流人口の向上によって広く認知されれば居住地選択の可能性を持つものです。

このまちの教育や研究環境からノーベル賞受賞者の誕生を祈念するとともに、光都の多様な魅力の発信と進化、新たな魅力の創生に、兵庫県をはじめ周辺自治体と力を合わせ取り組み、光都の可能性を育んでいきたいと思っております。



上郡町長
遠山 寛

輝く未来に向けて

まちびらき 20 周年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

播磨科学公園都市が、まちびらきをしてから、今日まで、国際的な科学公園都市の形成を目標とし、西播磨の緑豊かな自然、風土、歴史や文化を背景に、産、学、住、遊の機能を総合的に



佐用町長
庵谷 典章

備えた新しいまちづくりを目指し、企業や研究機関、大学などに利用され、日本の科学技術の発展や産業振興の向上に、多大なる貢献をされていることに対し深く敬意を表するものであります。

この 20 年、変動する社会・経済情勢の中にありながら、世界トップレベルの科学研究施設である SPring-8、SACLA、兵庫県立粒子線医療センターや文教施設、快適な住環境施設が集まるまちへと幅広く展開されています。

時代は、人口減少、少子高齢化が急激に進んでいます。このような中、先進的な科学技術のインフラを備え、さらには、まちを育てていながら、時代のニーズに柔軟に対応している播磨科学公園都市は、これからも多くの可能性を秘めたまちであることを切に感じます。

そして、自然環境と科学技術が共存し、自然や人が創り出す未来には、誰もが輝ける無限の世界が広がっていることを信じてやみません。

今、交流・関係人口といわれる時代。このまちを通じて、人、地域、まちが連携し協働する中で、私たちは、このすばらしい播磨地域に住んでいることに喜びを感じ、誇りを持ち、この先もずっと明るい未来を紡いでいながら、これからの播磨科学公園都市の役割に大きく期待するところです。

最後に、この 20 周年を一つの節目として、次なる 10 年に向けて、播磨科学公園都市の益々のご発展を祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。

播磨科学公園都市20周年イベント一覧

	内 容	実 施 日
H29年3月	JDF Aフェスティバル2017	3/11(土)~12(日)
4月	光都チューリップフェア のんびりマーケットinイースター SPRING-8施設公開 西播磨フロンティア祭2017	4/8(土)~30(日) 4/9(日) 4/29(土) 4/30(日)
5月	光都プラザフリーマーケット	5/3(水・祝)
6月		
7月	第1回テクノ再発見プロジェクト	7/16(日)
8月	テクノ再発見プロジェクト「テクノ夢のナイトパーティ」 光都夏祭り	8/11(金・祝)~12(土) 8/19(土)
9月	テクノ再発見プロジェクト「てくてく★ブラテクノ」	9/4(月)
10月	西はりまロードサイクリング まちぶらサイクリング・フォトラリー 光都プラザフリーマーケット 光都コスモスフェア テクノ再発見プロジェクト「テクノ秋の里山パーティ」 のんびりマーケットinハロウィン 播磨光都サッカー場増設記念球技大会・合宿所内覧会・住民等交流会 ふれあいいりハフェスタin西播磨2017 第1回テクノ・ジャズ・フェスティバル ふれあいの祭典 西播磨ふれあいフェスティバル やさしいサイエンスセミナー 播磨光都増設サッカー場開場式	10/1(日) 10/1(日) 10/1(日) 10/5~10/29 10/7(土) 10/8(日) 10/14(土) 10/15(日) 10/22(日) 10/28(土)~29(日) 10/28(土)~29(日) 10/28(土)
11月	「おとなが楽しむ社会科見学」ツアー テクノ再発見プロジェクト 「第1回テクノまちのみらい こどもワークショップ」 テクノ再発見プロジェクト 「第2回テクノまちのみらい こどもワークショップ」	11/7(火)、14(火)、28(火) 11/8(水) 11/22(水)
12月	播磨科学公園都市20周年記念シンポジウム「わたしたちの まちの これまでと これから」	12/10(日)
平成30年1月	光都火祭り テクノ再発見プロジェクト「テクノまちのみらいかるたであそぼう」	1/13(土) 1/17(水)
2月		
3月	テクノ再発見プロジェクト「第1回『光都であそぶ』を考える」 第4回JDF Aサッカーフェスティバル ～みんなでチャレスポin Harima～ テクノ再発見プロジェクト「第2回『光都であそぶ』を考える」	3/3(日) 3/10(土)~11(日) 3/18(日)

